

## 令和元年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
十一屋小学校	教科一般	I C Tの活用

## 1 研究の重点と具体的な取組

## (1) 重点1 主体的に学習に取り組むための工夫

- ①児童の興味関心を考えた授業構成や導入を行った。その際には「できそうだ」「やってみよう」という見通しをもつことができるよう工夫した。
- ②金沢型学習スタイルを基本とし、「考えたい」、「解決したい」学習課題（課題の吟味）から始まり、「わかった」「できた」を自分の言葉で表現させるまとめ（自分の言葉で書かせる、まとめの時間の確保）までの授業の流れを大切にしたい。
- ③教材教具の工夫、日常生活との結びつきを大切にしたい授業展開になるよう心掛けた。
- ④ゲストティーチャーを活用し、本物体験を大切にしたい。
- ⑤取材、調べ学習を大切にしたい、児童自身の「知りたい」を追求できるような単元計画となるよう工夫した。

## (2) 重点2 ねらいを明確にし、よさを実感できるペア学習・グループ学習

- ①ペア学習・グループ学習を積極的に取り入れることで、学級全員が主体的に学習に参加できる雰囲気ができるようにしたい。苦手な課題でも、前向きに考えを伝え合ったり、考えを広めたり、深めたりできるようにしたい。
- ②ペア学習・グループ学習を行う際には、児童も教師もねらいや活動のよさを共有できるように、活動の前後に声掛けを行ったり、交流の中で使ってほしいキーワードなどを具体的に示したりしたい。

## (3) 重点3 I C Tの特性を生かす工夫

- ①タブレット、書画カメラ、ビデオカメラ、P C、インターネットなど多様な機器を積極的に授業で活用したい。
- ②I C Tの特性として9つの視点で整理し、授業内で用いる意図を明確にするようにしたい。

## 2 取組の検証

## (1) 重点1 主体的に学習に取り組むための工夫

- ①児童が主体的に学習に取り組めるよう、単元展開や言語活動を工夫した教職員が多かった。
- ②研究授業の際には、授業で見られる主体的な姿を指導案に具体的に記述することで、授業者も参観者も明確なイメージをもつことができていた。
- ③自分の言葉でまとめを書いていると答えた児童が多かった。

	7月	12月
主体的に学習に取り組むための工夫をしている。	100	100

(教職員アンケート%)

授業中にノートには、課題とまとめ（ふりかえり）を書いていますか。	97.6	96.5
----------------------------------	------	------

(児童アンケート%)

## (2) 重点2 ねらいを明確にし、よさを実感できるペア学習・グループ学習

- ①ペア学習・グループ学習のねらいやよさを児童と共有しながら進めることができ、意欲的にペアやグループで話す児童が多かった。その活動の中で、理解が深まったり、自分の考えを広げたりすることができたと感じている児童も多く見られた。

	7月	12月
ねらいを明確にしたペア学習・グループ学習を意図的に取り入れている。	95	95

(教職員アンケート%)

	7月	12月
ペアやグループなどで友達と話し合っ自分の考えを深めたり広めたりしていますか。	91.7	91.3
ペア学習・グループ学習は、学習の役に立つと感じていますか。	92.3	92.3

(児童アンケート%)

## (3) 重点3 ICTの特性を生かす工夫

- ①9つの特性を共通理解し、授業内で積極的に活用するよう呼びかけた。  
②ICTの活用に関する校内研修を複数回実施し、研究授業では全員が活用の場面を設定していた。  
③教職員のICT活用への意識が向上し、積極的に授業内で活用している教職員が多かった。

	7月	12月
ICTの特性を生かす工夫をしている。	86.4	95.2

(教職員アンケート%)

## 3 成果と課題

### (1) 重点1 主体的に学習に取り組むための工夫

児童が主体的に学習に取り組む姿を具体的にイメージし、単元構成を工夫したり、単元を貫く言語活動を設定したりしている学年が多かった。年度当初は、主体的に学習に取り組む姿の捉え方が様々であったため、研究授業の指導案に児童の具体的な姿を記述し、研究会で話し合えるようにしたことも良かった。

### (2) 重点2 ねらいを明確にし、よさを実感できるペア学習・グループ学習

ペア学習・グループ学習のねらいやよさを児童と教師が共有しながら進めることができた結果、ペアやグループでの学習を意欲的に行う児童が増え、授業内でメリハリをつけながら取り組める姿も増えてきた。しかし、ペアやグループでの学習では、自分の考えを伝える練習であったり、考えに自信をもつだけで終わっていたりと、考えが深まるというところまでは十分にできなかった。

### (3) 重点3 ICTの特性を生かす工夫

研究授業や校内研修会での具体的な実践を通して、「できそうなことからやってみよう！」という意識を教職員全員で共有することができた。9つの特性を示したが、その中では視覚化、焦点化、共有化を意識して効果的に取り入れている授業が多かった。授業内の発表でタブレットと大型モニターを活用することや、児童が自分の考えを伝えるためにパソコンでまとめを作成するといったことが増え、操作に慣れてきているのも2年間の研究の成果と言える。